株式会社ケツト科学研究所

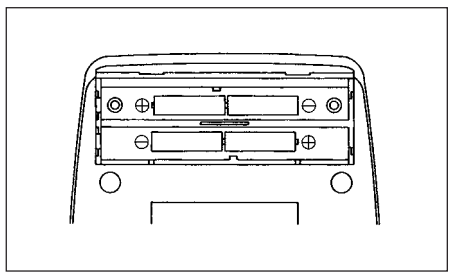
PM-830-2を使ってみましょう

このたびは、穀類水分計PM-830-2をご購入いただきありがとうございます。この簡単ガイドでは、初めてPM-830-2をご使用になる方のために、「国内産麦以外の水分の測定」と「国内産麦の水分と容積重の測定」を簡単に説明しています。詳細な操作方法については、取扱説明書をお読みください。

【 国内産麦以外の水分の測定 】

1 電池をセットして電源をONにします

電池1.5V(単3アルカリ)4本を、⊕ ⊖ の方向に注意して正しくセットし、[ON] キーを押して電源を入れます。

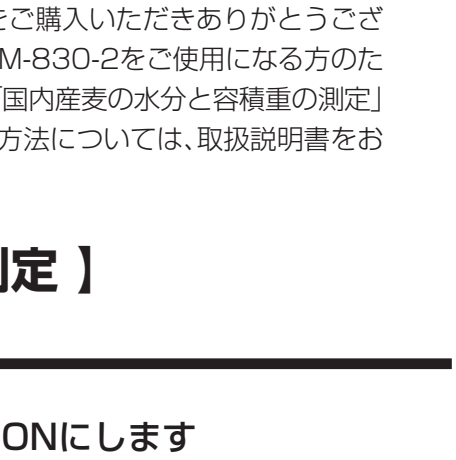


2 測定する穀類の「試料番号」を設定します

本体の側面に貼ってある「試料リスト」から測定する「試料番号」を選びます。

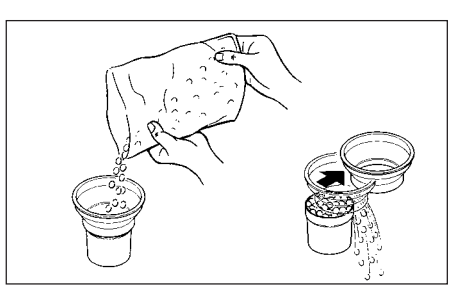
まず [選択] キーを押してから、続けて [平均 0] [6] キーを押します。

(例：12 玄そば → 06 大豆2 に変更する場合)

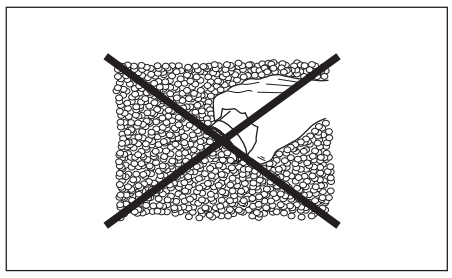


3 測定用試料を採取します

ホッパーを使用して試料カップに試料を投入し、ホッパーですりきり、一定量の試料を採ります。



＊ 試料を直接カップで採取することは、絶対にしないでください。

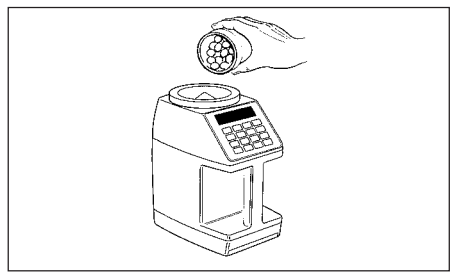


4 水分を測定します

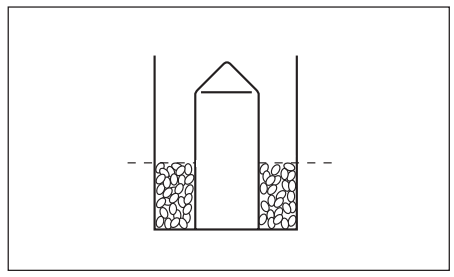
● [測定] キーを押し、表示部の小数点が点滅するのを確認します。

● POURが点滅し始めたら、試料を入れます。

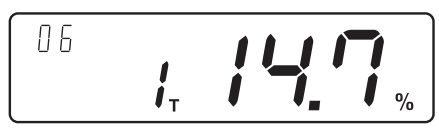
＊ POURの点滅は、試料を入れる合図です。POURが点滅しているあいだに、試料を入れてください。



● 2～3秒以内に一定の速度で、また、試料面が水平になるように試料を入れてください。



● 「水分値」を読みます。
「測定回数」(1～9回)と「水分値」を表示します。

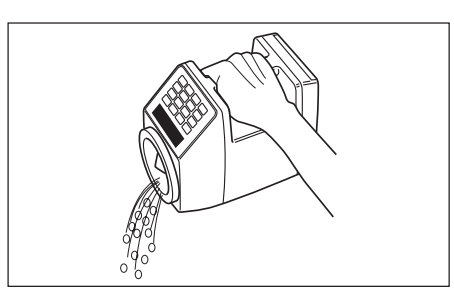


＊ 測定回数が2～9回のとき [平均 0] キーを押すと、「測定回数」(2～9回)と水分の「平均値」を表示します。
ただし、この平均値の求め方は、農産物検査の「標準計測方法」の計算方法とは異なりますので、農産物検査証明には使用しないでください。(取扱説明書 P29 参照)

5 試料を捨てます

次の測定をするときは、試料を捨て、『3 測定用試料を採取します』から繰り返します。

測定を終了するときは、[OFF] キーを押して電源を切ります。



■ 電池は、新しい電池1.5V(単3アルカリ)4本をご使用ください。

■ 本器は質量計を内蔵しています。器械に振動を与えると、正しい測定が行えない場合がありますので、必ず平らな台や机の上で静置してご使用ください。

■ 国内産麦以外の試料で、粒径が麦程度のものは、国内産麦と同じ要領で測定してください。

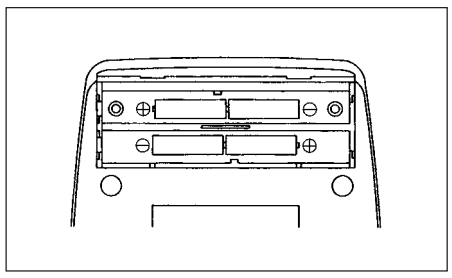
■ 測定部の内側に水が付着するような試料は、正しい測定ができません。
詳しくは、取扱説明書P24『8. 国内産麦以外の水分の測定』を参照ください。

■ 測定部内は付属のブラシなどを使って、いつもきれいに掃除をして使用してください。水洗いは絶対にしないでください。

【 国内産麦の水分と容積重の測定 】

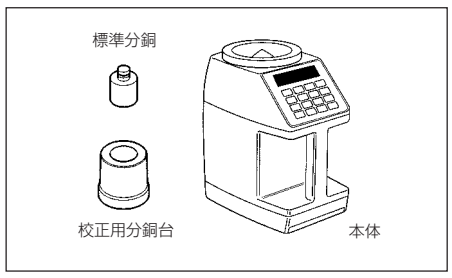
1 電池をセットして電源をONにします

電池1.5V(単3アルカリ)4本を、⊕ ⊖ の方向に注意して正しくセットし、[ON] キーを押して電源を入れます。



2 始業点検をします

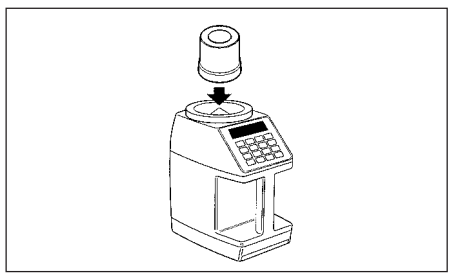
本体、200g標準分銅、校正用分銅台を用意します。



● [2] [8] キーを同時に押しながら、[ON] キーを押します。「ピッピッピッ」と3回ブザーが鳴ってから、約3秒後「ピッ」と1回鳴ればチェックの準備は完了です。

＊ [2] [8] キーは「ピッピッピッ」と3回ブザーが鳴り終わるまで、押し続けます。

＊ 試料番号は何の設定でも構いません。



● 校正用分銅台を逆さまにして中筒の先端にかぶせます。この状態で3分放置して、暖気します。

● [測定] キーを押し、表示部の小数点が点滅して「ゼロ点調整」をします。

● POURが点滅し始めたら、200g標準分銅を校正用分銅台に静かに載せます。

● 水分値を「 T AAA % 」と表示します。

● [測定] キーを押すと、空のときの容量値を表示します。「 表示例： 0 0.3 」

● [測定] キーを押すと、質量を表示します。

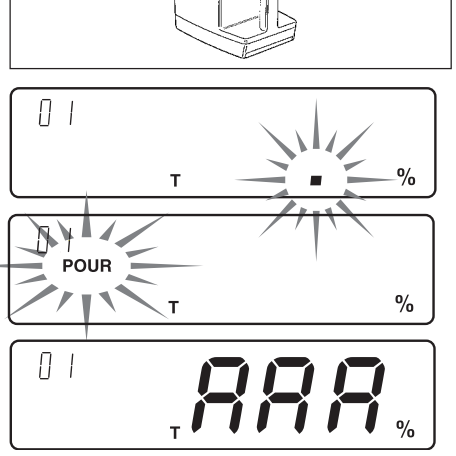
＊「 表示例：4 199g 」これは“199.4ｇ”と読みます。この結果が199.0～201.0ｇの範囲内であれば「正常」です。[OFF] キーを押して、終了します。「正常」の範囲を超えていたら修理調整が必要です。

3 測定する穀類の「試料番号」を設定します

本体の側面に貼ってある「試料リスト」から測定する「試料番号」を選びます。

まず [選択] キーを押してから、続けて [平均 0] [1] キーを押します。

(例：12 玄そば → 01 小麦 に変更する場合)



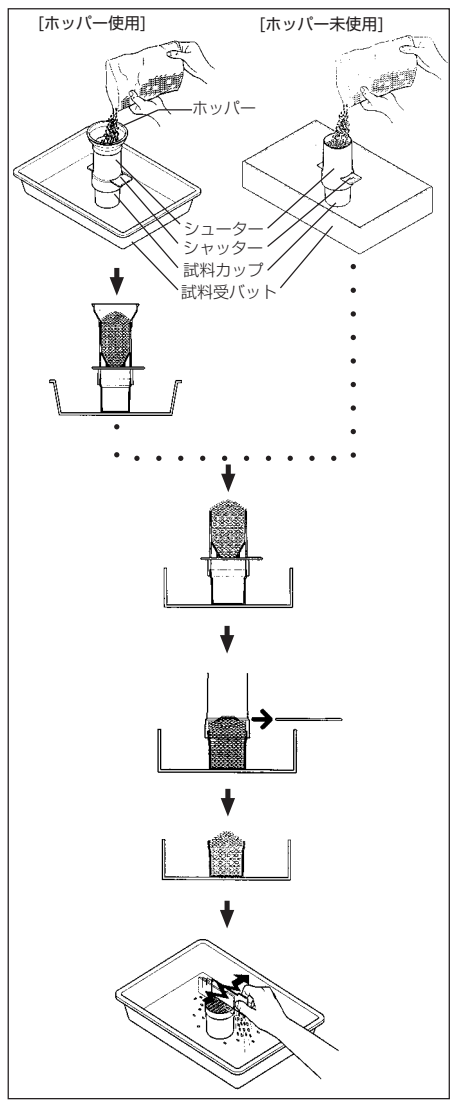
■ 本器の表示部は[g/ℓ]と表示しています。表示部以外は正規表記の[g/L]に統一しています。

■ 容積重の単位「g/L」は、1リットルあたりのグラム質量を表します。

■ 容積重の測定をする場合は必ず『2 始業点検をします』を行ってください。
詳しくは、取扱説明書P15『7. 国内産麦の水分と容積重の測定』を参照ください。

4 測定用試料を採取します

＊ 試料の採取はホッパーを使用する方法と、ホッパーを使用しないで試料を採取する2通りの方法があります。どちらの方法で試料を採取しても構いません。詳しくは取扱説明書P18『7-3. 試料の採取』を参照ください。



● ホッパー(使用する場合)、シューター、シャッター、試料カップ、試料受バットを組み、試料を入れます。

● ホッパーを使用する場合は、試料をホッパーの中程まで入れ、ホッパーを真っすぐに引き上げます。

＊ シューターから試料がこぼれ落ちますが、無理にシューターに詰め込まないでください。

● ホッパーを使用しない場合は、直接シューターに試料がこぼれ落ちるまで入れます。

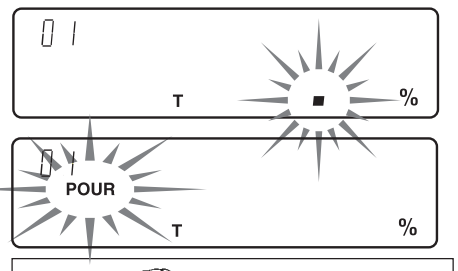
● シャッターを引き抜き、試料を試料カップに落とし込みます。

＊ シャッターは途中で止めることなく、一気に引き抜いてください。

● 試料が山盛りになっている試料カップの縁に、シャッターを垂直に立てます。「W」または「M」字を描くように、シャッターをジグザグに4回動かして、余分な試料をすりきります。

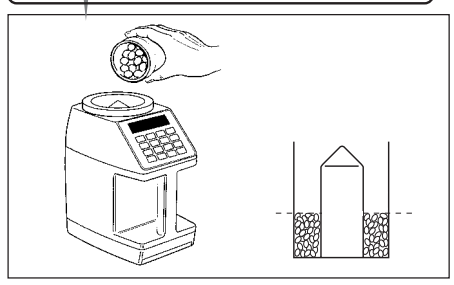
5 水分と容積重を測定します

● [測定] キーを押し、表示部の小数点が点滅するのを確認します。



● POURが点滅し始めたら、試料を入れます。

＊ POURの点滅は、試料を入れる合図です。POURが点滅しているあいだに、2～3秒以内に一定の速度で、また、試料面が水平になるように試料を入れてください。



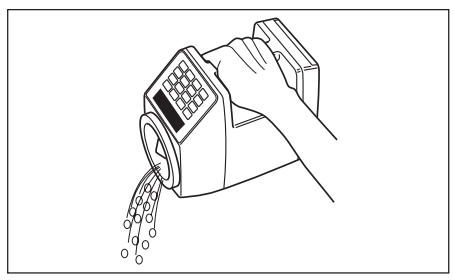
● 「水分値」と「容積重」を読みます。
まず、「測定回数」(1～9回)と「水分値」を表示します。水分値表示後、[g/L −] キーを押すと、「測定回数」(1～9回)と「容積重」を表示します。

＊ 測定回数が2～9回のとき [平均 0] キーを押すと、「測定回数」(2～9回)と水分の「平均値」を表示します。
続けて [g/L −] キーを押すと、「測定回数」(2～9回)と容積重の「平均値」を表示します。
ただし、この平均値の求め方は、農産物検査の「標準計測方法」の計算方法とは異なりますので、農産物検査証明には使用しないでください。(取扱説明書 P29 参照)

6 試料を捨てます

次の測定をするときは、試料を捨て、『4 測定用試料を採取します』から繰り返します。

測定を終了するときは、[OFF] キーを押して電源を切ります。



0702･MA･0301･001K